

金沢版交通環境学習

報告書

平成23年3月

金沢市交通政策部歩ける環境推進課

もくじ

第 1 章 本業務の概要	1
1-1 業務の目的	1
1-2 業務内容	1
1-3 実施校及び実施スケジュール	1
第 2 章 実施結果	2
2-1 「バスとクルマの二酸化炭素の関係を調べよう」の実施結果	2
(1) 実施概要	2
(2) 実施結果	2
①事前打ち合わせ結果	
②出前支援	
③教員ヒアリング	
(3) プログラムを実施するにあたっての注意点	14
2-2 「環境にやさしいクルマの使い方を考えよう」の実施結果	15
(1) 実施概要	15
(2) 実施結果	15
①事前打ち合わせ結果	
②出前支援	
③教員ヒアリング	
(3) プログラムを実施するにあたっての注意点	23
2-3 「交通すごろく」の実施結果	24
(1) 実施概要	24
(2) 実施結果	24
①事前打ち合わせ結果	
②出前支援	
③教員ヒアリング	
(3) プログラムを実施するにあたっての注意点	34
第 3 章 今後の進め方	35
3-1 教員ヒアリングまとめ	35
3-2 まとめ	39

第1章 本業務の概要

1-1 業務の目的

交通を通じて環境や社会について学び、子どもたちが社会的な影響に配慮した行動習慣を形成することを目標とした金沢版交通環境学習プログラム（発展版）の実施にあたり、金沢市職員の出前講座を支援することを本業務の目的とする。

1-2 業務内容

市内3小学校の小学校で実施する金沢版交通環境学習（発展版）の授業支援を行う。

- ①小学校との事前打ち合わせ
- ②授業の実施、支援
- ③授業実施後の教員ヒアリング

1-3 実施校及び実施プログラム

プログラム	実施校	学年	クラス数	コマ数
○バスとクルマの二酸化炭素の関係を調べよう	米泉小学校	5年	2クラス	45分×4コマ
○環境にやさしいクルマの使い方を考えよう	材木町小学校	5年	1クラス	■第1回目授業 45分×2コマ ■第2回目授業 45分×2コマ
○交通すごろく	栗崎小学校	4年	2クラス	■第1回目授業 45分×2コマ×2クラス ■第2回目授業 45分×2コマ×2クラス

第2章 実施結果

2-1 「バスとクルマの二酸化炭素の関係を調べよう」の実施結果

(1) 実施概要

①実施小学校

実施校	学年	クラス数・児童数
米泉小学校	5年	2クラス・28名/27名

②打ち合わせ等実施日

事前打ち合わせ	6月2日(水)、6月24日(木)
授業支援	7月8日(木)
教員ヒアリング	7月20日(火)

(2) 実施結果

①事前打ち合わせ結果

業務名 小学校MM2010		会議名 米泉小学校ヒアリング		作成年月日 10/06/02
				作成者 大西友世
説明事項 実施内容について				<input checked="" type="checkbox"/> 会議・打ち合わせ <input type="checkbox"/> 電話・FAX <input type="checkbox"/> その他()
日時 2010年6月2日(水) 16:00~17:00	出席者 米泉小学校 西方路己、津田、女性教諭1名		資料 ・金沢版交通環境学習(発展版)打合せ資料 ・5年マイタイム ※米泉小学校が用意	
場所 米泉小学校	金沢市 古谷、東 計画情報研究所 北川、大西 計7名			
内容				
<p>1. 実施希望プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「バスとクルマの二酸化炭素の関係を調べよう」を実施する。(西方路己) <p>2. 出前希望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前を希望する。出前内容としては、授業の実施及び授業中に児童から出てきた質問への回答を希望する。(西方路己) <p>3. 金沢版交通環境学習の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間で、「米泉の空気」というテーマで取り組む。(西方路己) ・総合的な学習の時間のねらいは、以下のとおりである。(西方路己) <div style="border-left: 1px solid black; padding-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 課題が作れる ② 調べられる ③ まとめられる ④ 伝えることができる、受け取ることができる ⑤ 伝え合う中で更に深めることができる </div> <p>4. 実施希望日程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の年間カリキュラムとしては、7月に実態を知る活動を行うことを予定している。そのため、7月に金沢版交通環境学習を実施したい。(西方路己) ・実施日程が決まり次第、金沢市にご連絡する。(西方路己) <p>5. 実施クラス数、児童数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2クラス合同で実施する。(西方路己) ・2クラスの児童数は、27名と28名である。(津田) <p>6. 実施時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続して4時間を確保することは可能である。1回目の授業で4時間の時間をとり、1回目・2回目授業の内容を1度に実施する。(西方路己) <p>7. 授業における学習の落としどころ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の場合、総合的な学習の時間の一部として金沢市が出前授業としてお手伝いするかたちで金沢 				

版交通環境学習を実施する。先生に金沢市がお手伝いする 4 時間の授業における学習の落としどころを考えて欲しい。(北川)

8. デザートプログラム「バスの運転手さんに聞いてみよう」

- ・本プログラムを実施するためには、バスの運転手に依頼しなければならない。そのため、実施するのであれば、早めに決めて欲しい。(古谷)
- ・本プログラムを実施する場合、7月の授業時間を4時間から3時間に短縮し、後日短縮した1時間で実施することが考えられる。(北川)
- ・本プログラムは、本物のバスの運転手から直接話しを聞けるため、魅力的である。本プログラムの実施について検討し、実施希望日程と一緒に金沢市にご連絡する。(西方路己)

9. 今後の進め方

- ・プログラム実施希望日を金沢市に電話で知らせていただく。その際、「バスの運転手さんに聞いてみよう」実施についての検討結果も教えていただく。(古谷)
- ・CO2 マップの作成内容に関わるため、次回の打ち合わせで授業の落としどころを確認したい。(北川)
- ・次回の打ち合わせで、プログラム実施日のタイムスケジュールと役割分担、標準パッケージをベースとしたプログラムの組み替え方法について相談したい。(北川)
- ・実施の流れは、①事前打ち合わせ、②授業、③教員ヒアリングとなる。1回目の授業で1回目と2回目の授業内容を一度に実施するため、2回目授業の事前打ち合わせと2回目授業は実施しない。(北川)

以上

業務名 小学校MM2010	会議名 米泉小学校ヒアリング	作成年月日 10/06/25
		作成者 大西友世
説明事項 実施内容について		<input checked="" type="checkbox"/> 会議・打ち合わせ <input type="checkbox"/> 電話・FAX <input type="checkbox"/> その他 ()
日時 2010年6月24日(木) 16:00~17:00	出席者 米泉小学校 西方路、津田、女性教諭 金沢市 中田、東 計画情報研究所 大西 計6名	資料 ・交通環境学習プログラム備品リストと当日メモ ・米泉小学校交通エコロジー教室タイムスケジュール ・グループリーダーの手引き 交通量調査・二酸化炭素量測定の方法 ・バスとクルマの二酸化炭素の関係を調べよう
場 所 米泉小学校		
内 容		
<p>1. 集合時間、開催場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8:10に2階マルチへ集合 <p>2. 児童数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1組 28名 ・2組 27名 <p>3. 学習の落としどころ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を踏まえて、児童が次の授業の布石となることを考えるというレベルまでのまとめを行うことが理想的である。しかし、児童によって理解力に差がある。全児童が調査結果から言えることを共有するだけでもある程度の時間が必要だろう。そのため、金沢版交通環境学習の学習の落としどころは、全児童が調査結果から言えることを共有するというレベルにしたい。(西方路) ・授業の最後に児童が記入するため特定の用紙は用意していない。金沢版交通環境学習で用意されている「ふりかえりシート」を使用する。(西方路) <p>4. プログラム内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地球温暖化と交通の関係」スライドの説明後に「金沢のバスについて」スライドを説明する流れに変更して良い。(西方路) ・授業の最初に「地球温暖化と交通の関係」スライドの説明を行っているが、授業の最後には児童の記憶から薄れている可能性がある。そのため、授業のまとめの前に、再度「地球温暖化と交通の関係」スライドの内容を説明したい。「市内の二酸化炭素測定結果」スライドの説明後に「地球温暖化と交通の関係」スライドの12~17枚目を追加説明する。(中田) 		

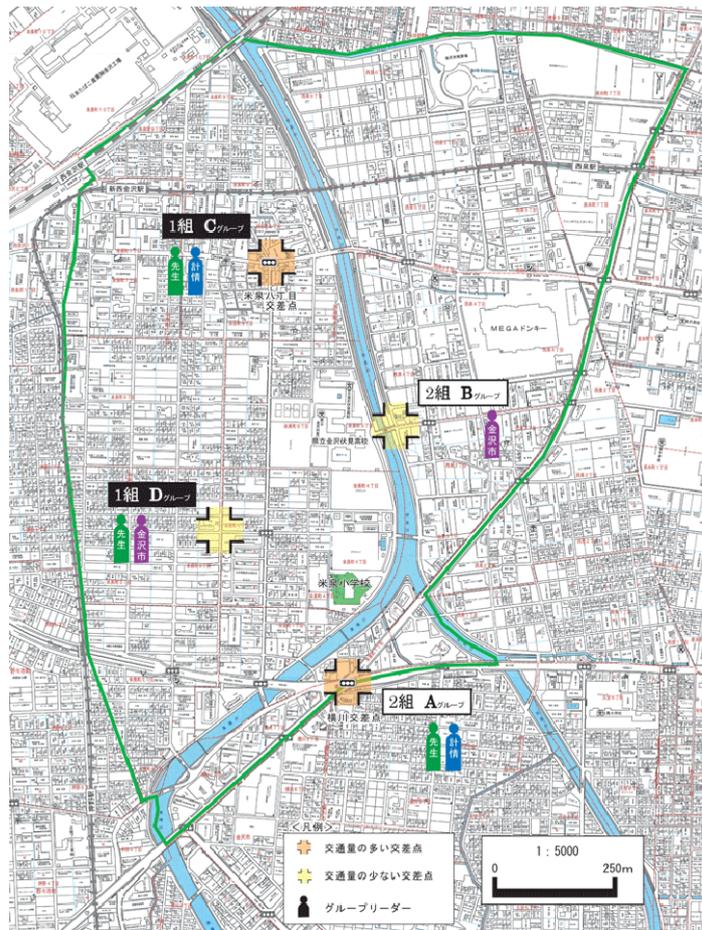
5. 児童のグループ分け

- ・事前に児童のグループ分けは行っておく。(西方路)
- ・グループ分けは以下のとおりとする。

クラス	グループ名	測定場所	児童数	測定地点児童数	グループリーダー
2組	A	交通量の多い場所	14名	3名	先生1名 計画情報1名
				3名	
				4名	
				4名	
	B	交通量の少ない場所	13名	3名	金沢市1名
				3名	
				3名	
				4名	
1組	C	交通量の多い場所	14名	3名	先生1名 計画情報1名
				3名	
				4名	
				4名	
	D	交通量の少ない場所	14名	3名	先生1名 金沢市1名
				3名	
				4名	
				4名	

6. 二酸化炭素&交通量測定場所

- ・各クラス2箇所(交通量の多い交差点、少ない交差点)で調査を行う。具体的な調査地点は以下を通りとする。



7. 天候による実施判断

- ・実施判断は、米泉小学校が授業当日の朝 7:00 に行う。判断結果については、米泉小学校から金沢市に直接連絡する。(西方路)
- ・米泉小学校からの連絡を受けて、金沢市が計画情報に連絡する。(東)
- ・7月8日(木)に実施できなかった場合、7月14日(水)1~4限目に実施する。他の授業との関係上、7月14日(水)をさらに延期することは難しい。7月8日(木)に延期した場合、天候にかかわらず7月14日(水)には必ず実施する。(西方路)

8. 金沢市、計画情報の車両の駐車場所

- ・正面玄関前の駐車場の2台分にカラーコーンを立てておく。その場所に駐車して欲しい。(西方路)

9. 担当教員ヒアリングの日程

- ・7月20日(火) 16:00~

以上

②出前支援

出前講座実施の支援を行った。



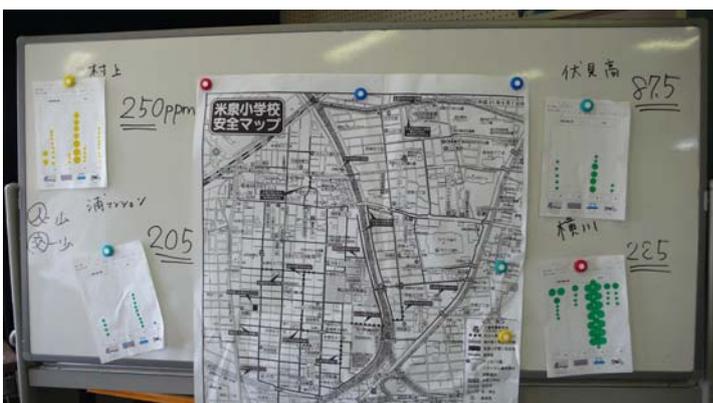
二酸化炭素濃度測定の説明



二酸化炭素濃度と交通量の測定

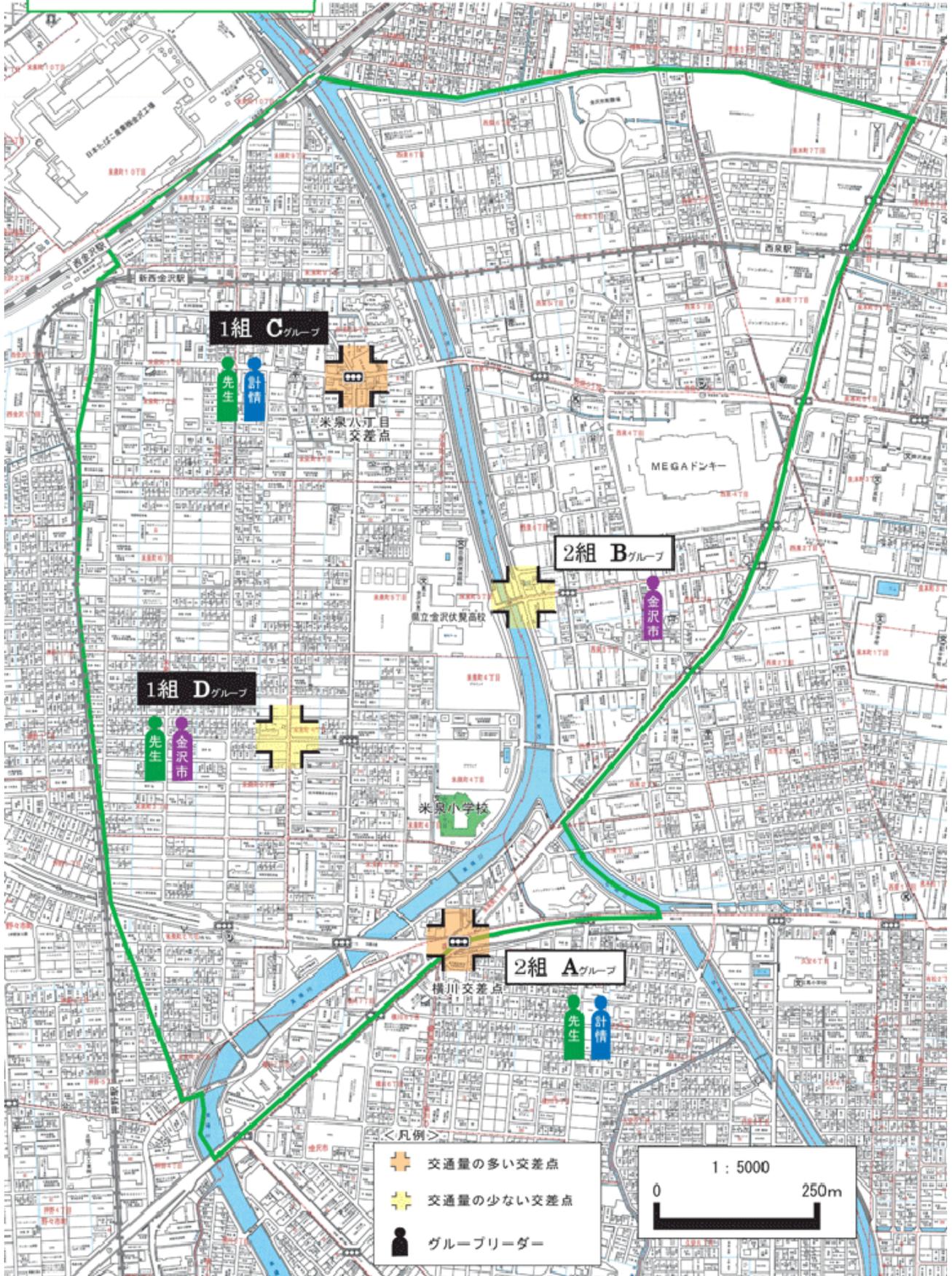


スライド説明



二酸化炭素濃度・交通量マップ

金沢市立米泉小学校校区



調査地点地図

③教員ヒアリング

i) 金沢版交通環境学習に取り組んでの全体的な感想

○児童は自分で計測することで学習内容に実感を持ち、数値化、可視化によって調査結果を理解できた。そのため、児童に強い印象が残り、実施後の授業における児童の発言や行動に影響が出ている。これらのことから、金沢版交通環境学習は児童の意欲づけとして効果的であったと考えられ、総合的な学習の時間の一部として十分な役割を果たしたと言える。

○金沢版交通環境学習の実施時間を確保することによる、カリキュラムの変更等の負担はなかった。

○効果的な学習であり、児童が楽しそうに学習していたため、来年度も取り組みたい。

- ・楽しかった。児童は楽しそうに学習していた。
- ・来年度も取り組んでみたい。
- ・児童の意欲づけとして効果がある授業であった。金沢版交通環境学習は、総合的な学習の時間の一部としての役割を十分果たした。
- ・金沢版交通環境学習の学習内容は、児童に強い印象を残したようである。金沢版交通環境学習実施後の授業において、児童から金沢版交通環境学習の学習内容を踏まえた発言や行動が見られた。夏休みの課題研究として交通量を測定する児童もいる。(教諭)
- ・児童は、実際に自分達で計測を行うことで実感を持つことができた。また、児童は計測結果を明確な数値で出し、シールで可視化することで理解することができた。(教諭)
- ・金沢版交通環境学習の実施時間を確保することによる、カリキュラム変更等の負担はなかった。

ii) 気づいた点、改善点

○最初の打合せ時にタイムスケジュールと役割分担表を提示していただいたため、授業全体を把握することができた。

○実施学年は、総合的な学習の時間のテーマが「環境」である 5 年生が適している。実施教科としては、国語の「伝え合って考えよう」、社会の「わたしたちの生活と工業生産－自動車をつくる工業」の単元と関連させて実施することが考えられる。

○5 年生はデータの比較に興味を持つ傾向がある。今回の授業において、児童は場所毎の二酸化炭素濃度の比較に興味を持っていた。二酸化炭素濃度に加えて交通量の比較データもあれば良い。

→交通量の比較データとして、本プログラムの実施校のデータを使用する方法や新たに市内各所のデータを取得する方法が考えられる。

○実施学年

- ・金沢市では 5 年生の総合的な学習の時間のテーマを「環境」としている。そのため、金沢版交通環境学習の実施学年は 5 年生が望ましい。

○教科との関連

- ・5年生の9月頃に学習する国語の「伝え合って考えよう」という単元と関連させて、金沢版交通環境学習を実施することが考えられる。
- ・5年生の社会の「わたしたちの生活と工業生産ー自動車をつくる工業」という単元と関連させて、金沢版交通環境学習を実施することが考えられる。

○打合せ資料

- ・分刻みのタイムスケジュールが用意されており、実施事項や役割分担が分かりやすかった。最初の打合せ時に提示していただいたため、授業全体を把握することができた。

○授業内容

- ・5年生になると自分の手元にあるデータを他のデータと比較したがる傾向がある。トンネル内の二酸化炭素濃度データ 900ppm は、他の場所と比較するデータとして児童が非常に興味を持つデータである。そのため、市内の二酸化炭素量測定結果スライドにおいて場所毎の二酸化炭素濃度データを説明したことは良かった。これに加えて、交通量の比較データがあると良い。
 - 本学習プログラムを実施した小学校の交通量のデータを蓄積していき、他小学校のデータとの比較を行うことが考えられる。
 - 市内の二酸化炭素量測定結果スライドに片町や金沢駅前など各地点の交通量データを加えることが可能である。

iii) 金沢版交通環境学習を普及推進していくためのアドバイス

- 4～6年生分のプログラム集が5年生担任の先生方の手元に行き渡っていない可能性がある。
 - 先生方にプログラム集の存在を知らせる必要がある。
- SA@SHOOLは定期的に確認しているが、金沢版交通環境学習HPの存在は知らなかった。
- 本プログラムは人手が必要であり、消耗品を提供されても教員だけで実施することは難しい。保護者に手伝っていただくことが考えられる。
- 校長先生から実施を決定事項として伝えられれば、教員は実施する。
- 次年度授業の年間スケジュールに金沢版交通環境学習を入れるためには、出前授業を行っていただけるという確約が必要である。
- 小教研の総合的な学習の時間を専門にしている部会を対象にPRを行うことが考えられる。4月の集まりで説明を行うことや、公開授業で金沢版交通環境学習を実施することが考えられる。
- 金沢「絆」教育における金沢学の1つとして、金沢版交通環境学習を組み込んでもらえる

よう金沢市学校指導課に働きかけることが考えられる。

○プログラム集

- ・プログラム集は、3年生分と4～6年生分の2冊ともに3年生の棚に収められていた。今回の金沢版交通環境学習の実施が決定してから存在を知り、一読した。
→4～6年生の担任の先生方にプログラム集の存在を知らせる必要がある。

○HP

- ・SA@SCHOOLは、メッセージを確認するために定期的に見ているが、それ以外の部分については見ないことが多い。今回の金沢版交通環境学習の実施が決定してから金沢版交通環境学習HPの存在を知った。

○周知・PR方法

- ・小教研の総合的な学習の時間を専門にしている部会の集まりで、4月頃に説明を行ってはどうか。
- ・公開授業はPR効果が高い。小教研の各部会は年間3回程度の公開授業を実施している。総合的な学習の時間を専門にしている部会の公開授業として、金沢版交通環境学習を実施してはどうか。

○普及方法

- ・本プログラムは、消耗品を提供されたとしても教員だけで実施することが難しい。そのため、出前授業を行っていただく必要がある。小学校では校外での活動の際、保護者の方に授業実施のお手伝いをお願いすることがある。本プログラムの実施にあたり、保護者の方にお手伝いをお願いするのも1つの方法である。
- ・校長先生から金沢版交通環境学習の実施を決定事項として伝えられれば実施する。
- ・各教員は毎年3月頃の次年度授業の年間スケジュールを作成する。しかし、出前授業を行っていただけるという確約がなければ、次年度の授業の年間スケジュールに金沢版交通環境学習の実施を書くことは難しい。
- ・金沢市では、金沢市教育委員会が『金沢「絆」教育※¹』、金沢大学と北国新聞社が『金沢学※²』を実施している。金沢学を小学校で実施する場合、外部講師に来ていただき金沢のことを知り、理解する力を育てることを目的として総合的な学習の時間と各教科を連携して実施する。今年の夏休みから、金沢市学校指導課が金沢「絆」教育に金沢学を取り入れたカリキュラムづくりを行う予定である。金沢版交通環境学習は、金沢の公共交通や環境について学習するため、金沢学としての要素を含んでいる。金沢市学校指導課に対して、金沢学の1つとして金沢版交通環境学習を組み込んで欲しいとアピールしてはどうか。(校長)

※₁ 金沢「絆」教育（金沢市役所 HP 参照）

金沢市教育委員会では、平成 21 年度より第 2 次学校教育金沢モデルを実践している。その中心となるのが金沢「絆」教育であり、人と人とのつながりを基盤として、社会・自然・世界などとの関わりを再認識し、絆を感じ取ることを通じて他者を尊重するとともに、命あるものを大切にする心や態度を育成することを基本的な考えとしている。

※₂ 金沢学（金沢学 HP 参照）

金沢大学と北國新聞社が、それぞれが持つ教育研究と報道の機能を活用して共同で「金沢学」に取り組んでいる。その一環として、金沢学のすその拡大を目的に市民公開講座を開講している。市民公開講座は、「金沢の達人を目指す」をテーマに、金大や県内の歴史文化の研究機関などがこれまでに蓄積したふるさとの知識を学ぶ内容となっている。

(3) プログラムを実施するにあたっての注意点

- ・今回は、総合的な学習の時間における本プログラムの位置づけから「バスの運転手さんに聞いてみよう」の小プログラムをつけなかった。
- ・児童に学習内容を思い出してもらうため、授業の最初に説明する「地球温暖化と交通の関係」を、もう一度まとめの前に説明した。
- ・実施に適している学年は、数値データの比較に比較的興味を持ち、総合的な学習の時間のテーマが「環境」である5年生である。また、5年生で実施する場合、国語の「向き合って考えよう」や社会科の「わたしたちの生活と工業生産－自動車をつくる工業－」にも関連付けすることが考えられる。
- ・二酸化炭素濃度の他地域との比較に加え、交通量の比較データがあればよい。

2-2 「環境にやさしいクルマの使い方を考えよう」の実施結果

(1) 実施概要

①実施小学校

実施校	学年	クラス数・児童数
材木町小学校	5年	1クラス・35名

②打ち合わせ等実施日

事前打ち合わせ	6月16日(水)
授業支援	第1回目授業：7月16日(金) 第2回目授業：9月15日(木)
教員ヒアリング	9月16日(金)

(2) 実施結果

①事前打ち合わせ結果

業務名 小学校MM2010		会議名 材木町小学校ヒアリング		作成年月日 10/06/16
				作成者 大西友世
説明事項 実施内容について				<input checked="" type="checkbox"/> 会議・打ち合わせ <input type="checkbox"/> 電話・FAX <input type="checkbox"/> その他()
日時 2010年6月16日(水) 16:00~17:00		出席者 材木町小学校 金沢市 計画情報研究所		資料 ・金沢版交通環境学習(発展版)打合せ資料
場所 材木小学校		順教寺 東、縄 大西 計4名		
内容				
<p>1. 実施希望プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「環境にやさしいクルマの使い方を考えよう」を実施する。(順教寺) <p>2. 金沢版交通環境学習の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間のなかで金沢版交通環境学習に取り組む。材木町小学校の総合的な学習の時間のテーマは「環境」であり、大気汚染と森林破壊について取り上げ、大気汚染として金沢版交通環境学習、森林破壊として卯辰山について学習する。(順教寺) <p>3. 実施プログラム内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの内容に問題はない。標準パッケージのまま実施する。(順教寺) <p>4. 授業における学習の落としどころ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の「環境」というテーマのなかで金沢版交通環境学習を実施するため、実施後に「環境」というテーマでまとめることができるようにしたい。金沢版交通環境学習の内容は「環境」を含んでいるため、実施後に「環境」というテーマでまとめることは可能である。(順教寺) <p>5. 懸案事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クルマを持っていない家庭の児童はいないか。そのような児童がいた場合、先生のCO2削減プランを作成するなどの対応が必要である。(大西) →クルマを持っていない家庭の児童がいるかの確認をする。確認後に、金沢市に結果をご連絡する。(順教寺) <p>6. 実施希望日程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回目授業の事前打合せは行わなくて良い。(順教寺) →クルマを持っていない家庭の児童がいた場合など、必要があれば実施する。(東) ・第1回目授業は7月16日(金)1、2限目に実施する。(順教寺) ・第2回目授業は9月15日(水)3、4限目に実施する。(順教寺) 				

7. 実施クラス数、児童数

- ・1クラス、35名である。(順教寺)

8. 第1回目授業までに小学校にしていきたいこと

- ・全児童に第1回目授業までに1週間のクルマ利用調査を行っていただきたい。(大西)
- 本日いただいた見本用紙をコピーして児童に配布し、第1回目授業までにクルマ利用調査を行うように指導しておく。(順教寺)

9. 第1回目授業

(1) 駐車場

- ・正面玄関の前に停めて欲しい。駐車台数が少ないため、できれば乗り合わせて1台で来て欲しい。(順教寺)

(2) 会場

- ・3階の「まるてい」

(3) スケジュール

7:45 金沢市役所で計画情報と金沢市が合流

8:00 頃 材木町小学校着

8:35 1限目授業開始

(4) 準備物

①小学校

- ・スクリーン
- ・事務局側用の机2つ(パソコン用、プロジェクター用)、椅子1脚(パソコン操作用)
- ・全児童分の机、椅子
- ・全児童分の1週間クルマ利用記録表

②計画情報

- ・パソコン1つ
- ・プロジェクター1つ
- ・ポインター1つ
- ・延長コード1つ
- ・デジカメ1つ
- ・全児童分のCO2削減プラン記入シート

10. 第2回目授業

- ・デザートプログラムとして、「標語」か「お手紙」のどちらを実施するかを考えておく。(順教寺)

以上

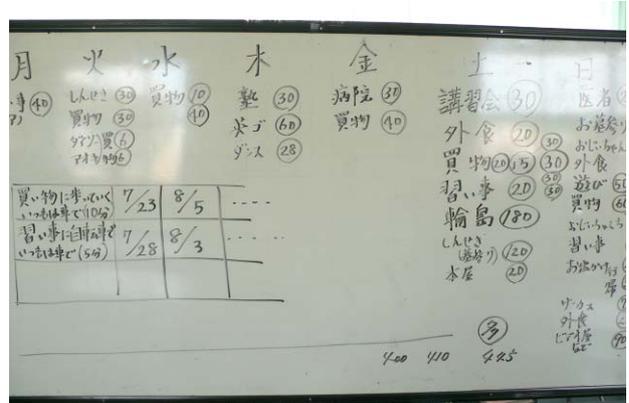
②出前支援

第1回目と2回目の出前講座実施の支援を行った。

○第1回目授業



意見発表

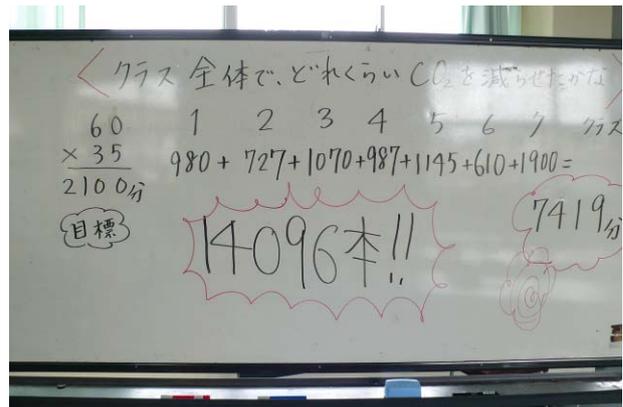


板書

○第2回目授業



スライド説明



板書



標語作成



標語発表

○児童の作品

地球はね
ぼくを守れと
おこってる



バスに乗ろう
ふだん見ない
景色が見える



車利用
減らすだけで
地球を救う



目指そうよ
全校みんなで
地球を救おう



歩く度
自分も地球も
クールダウン

できるだけ
バスを
使おう
みんなのために



ぼくはスーパ
ー車は車庫
乗らずに守ろう
地球をね。



みらいへの
ためにストップ
車りよう



車をね
10分乗ら
ず
徒歩10分
に



2010年9月
材木町小学校5年生

2リットルペットボトル 14,096本分の 二酸化炭素削減に成功しました！

金沢市では、子ども達が環境問題を自分自身の問題と捉え、環境や社会に配慮した行動をとる姿勢を身につけることを目標に交通と環境の関係を学習する交通環境学習を実施しています。本年度、当校5年生がその取り組みに参加しました。

子ども達が作成したCO₂削減プランの実施において、ご多忙にも関わらずご家族の皆様方にもご協力いただき、ありがとうございました。

以下に、みなさまの取り組みで減らせた二酸化炭素量をご報告いたします。

**クルマ利用マイナス60分を目標に、
自分たちができるCO₂削減プランを作成し、夏休みに取り組みました。**

その結果…

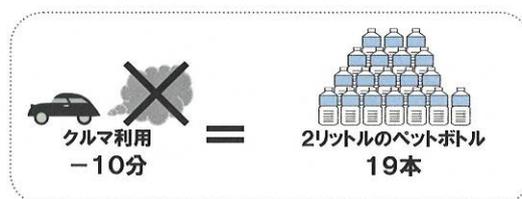
5年生全体で、

2リットルペットボトル

14,096本分の 二酸化炭素削減に成功！

一人ひとりの取り組みが積み重なって、大きな成果になりました。

1年のエコ行動によって減る
二酸化炭素の量



今後、ご家庭でも環境問題と交通手段の選択方法について話し合い、できる範囲での取り組みを続けてみてはいかがでしょうか。



③教員ヒアリング

i) 金沢版交通環境学習に取り組んでの全体的な感想

- 4月に年間カリキュラムを作成しているため、今回のように6月半ばに金沢版交通環境学習の実施依頼をされると年間カリキュラムのなかに組み込むことに苦勞する。
- 第1回目授業、CO2削減プランの実施、第2回目授業の実施時期は変更できないものだと判断し、総合的な学習の時間の流れに沿わないが実施した。
- 金沢版交通環境学習の学習内容を理解したうえで、総合的な学習の時間のなかに位置づけを行う必要があったと反省している。
- 今回の授業実施後、クルマ利用を控える発言をする児童がいた。一定の学習内容の定着ははかられている。

- ・今年の6月半ばに教頭から金沢版交通環境学習の実施を依頼された。その後、総合的な学習の時間のなかで金沢版交通環境学習を実施することになった。しかし、総合的な学習の時間の年間カリキュラムは4月に決めている。第1回目授業を7月、CO2削減プランの実施を夏休み、第2回目授業を9月という実施時期は変更できないものと思った。そのため、既に決まっている総合的な学習の時間の年間カリキュラムにおける学習の流れに沿わないと思ったが、総合的な学習の時間に金沢版交通環境学習を強引に位置づけて実施した。そのため、金沢版交通環境学習とその前後の学習との繋がりが不自然になってしまった。金沢版交通環境学習の学習内容を十分に理解したうえで、総合的な学習の時間のなかに位置づける必要があったと反省している。
- ・授業後、児童からクルマ利用を控えているという発言が出ていた。学習効果が残っていることがうかがえる。

ii) 気づいた点、改善点

- 事前打合せは1回で良い。1回目授業の前に1回目授業と2回目授業の両方の打合せを行い、2回目授業の前は電話での最終確認を行えば良い。
- 調べ活動が含まれている授業は、児童が集中して授業に取り組むことができるため、学習効果が高く魅力的である。そのため、実際に校外に出て測定を行う「バスとクルマの二酸化炭素の関係を調べよう」のプログラムにも魅力を感じる。
- 学習内容の定着をはかるためには、教員が一方向的に説明を行うのではなく、クイズなど児童とやりとりができる授業を行うと良い。
- CO2削減プランへの取り組みは、児童の学習への意識がつづき、教員が管理しやすい夏休み以外の期間に行った方が効果的である。
- CO2削減プランシートへ保護者からのコメントが少なかったのは、金沢市からの依頼文の有無とは関係ない。

○事前打合せ

- ・1回は打合せを実施した方が良い。1回目授業の前に、1回で1回目授業と2回目授業

両方の打合せを行い、2回目授業の前には電話での最終確認程度で良い。

○授業当日の段取り

- ・授業当日の時間配分や流れは、妥当である。

○プログラム内容

- ・児童は、標語作成によって自分達が学習した内容を他者に広げるという意識を持つことができた。
- ・児童は、授業前の段階で環境に関する内容について既に一定の知識を持っている。説明を聞くだけの学習ではなく、調べ活動など児童が自ら動く学習を取り入れると児童は授業に集中できる。
- ・児童は説明を聞くだけの授業だと、学習内容が頭に残らない。児童と受け答えができる授業にすると良い。例えば、児童に書かせる活動を行わせることや、クイズ形式で児童に説明を行うことが考えられる。
- ・CO₂削減プランへの取り組みは、夏休みに行わなくても良い。夏休みは期間が長いいため、児童のやる気が続かない。また、夏休み明けまでに取り組みを行ったことに対する児童の記憶が薄れてしまう。また、夏休みは、実施状況などを教員が管理できない。この程度の家庭における取り組みであれば、学期中に行うことも可能である。
- ・CO₂削減プランシートの保護者記入欄へ記入が行われていない児童が複数見られた。これは、学校行事などが忙しかったため、教員が丁寧な対応ができなかったことが原因である。金沢市から保護者への依頼文が無かったことが原因ではない。
- ・今回取り組んだプログラム以外に「バスとクルマの二酸化炭素の関係を調べよう」は、児童の調べ活動が含まれるため魅力的である。

iii) 金沢版交通環境学習を普及推進していくためのアドバイス

○教員向けの研修や小教研での説明内容は、参加した教員内でしか情報が共有されない。

○ユネスコスクールに取り組んでいる小学校に実施を働きかけると良い。

○金沢版交通環境学習のHPは、取り組むことが決定するまでは見なかった。

- ・教員は、学校への研修の成果報告を任意で行っている。また、教員は小教研で知った内容を他の教員に伝えることは少ない。そのため、研修や小教研で金沢版交通環境学習について説明しても、参加している教員以外の教員に伝わる可能性は低い。
- ・今回の授業実施が決まってから、金沢版交通環境学習のHPを拝見した。
- ・ユネスコスクールに取り組んでいる小学校に働きかけると良い。

(3) プログラムを実施するにあたっての注意点

- ・児童が学習した内容を覚えていて、教員が取り組みを管理しやすいため、夏休み以外にCO₂削減プランを実施したほうが効果的な場合もある。
- ・今回の実施小学校は、まちなかの小学校であったため、児童のクルマ利用が少なかった。児童のクルマ利用が少ないことが想定される場合は、保護者のクルマ利用も普段のクルマ利用として記録することが必要である。

2-3 「交通すごろく」の実施結果

(1) 実施概要

①実施小学校

実施校	学年	クラス数・児童数
栗崎小学校	4年	2クラス・37名×2クラス

②打ち合わせ等実施日

事前打ち合わせ	8月24日(火)
授業支援	第1回目授業：9月6日(月) 第2回目授業：9月10日(金)
教員ヒアリング	9月24日(金)

(2) 実施結果

①事前打ち合わせ結果

業務名 小学校MM2010		会議名 栗崎小学校ヒアリング		作成年月日 10/08/24
				作成者 大西友世
説明事項 実施内容について				<input checked="" type="checkbox"/> 会議・打ち合わせ <input type="checkbox"/> 電話・FAX <input type="checkbox"/> その他()
日時 2010年8月24日(火) 10:00~11:30	出席者 栗崎小学校 金沢市 計画情報研究所		戸水、井表 古谷、縄 北川、大西 計6名	資料 ・金沢版交通環境学習(発展版)打合せ資料 ・交通環境学習プログラム備品リストと当日メモ ・すごろく補足説明スライド
場所 栗崎小学校				
内容				
<p>1. 実施希望プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「交通すごろく」を実施する。 <p>2. 実施クラス数、児童数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2クラスの児童数は、37名と37名。 <p>3. 第1回目授業</p> <p>(1) 実施場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館 <p>(2) 集合時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10:10に体育館 <p>(3) 授業事前に行うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員が児童を3~4人のグループに分けておく。 <p>(4) 駐車場位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校正面の駐車場を使用して欲しい。当日、駐車場所にはコーンを置いておく。(戸水) <p>(5) 準備物</p> <p>①小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラフープ16個 ・長いひも1本 ・スクリーンに代わるモニター画面 ・パソコンの台 ・コマの横に置く児童の身近な建物を書いた紙 <p>②計画情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン ・デジカメ ・ポインター 				

- ・延長コード
- ・クルマ・バスカード
- ・記録用紙
- ・二酸化炭素計算シート
- ・ふりかえりシート
- ・運転手用の帽子

(6) 授業内容

・1回目すぐろくの結果をもとに二酸化炭素排出量を計算することになっている。この際使用しているのは、バスとクルマそれぞれが、1人を1km運ぶときに排出する二酸化炭素量である。しかし、ゲームを行っているなかでバスに多くの人に乗っているわけではない以上、この数値をそのまま使うことに疑問を感じる。(戸水)

→バスカードを使った児童は、多くの人々が利用しているバスに乗車して移動する設定であれば、1人を1km運ぶときに排出される二酸化炭素量を使用しても問題はない。(大西)

→最初から、そのような説明を行う必要はない。児童からの質問があれば、説明を行うこととする。(戸水)

・児童保護者や学校教員の多くはクルマを使っており、児童保護者のなかにはクルマ関係の仕事をされている方がいる可能性もある。そのため、環境教育を行う場合、バスは良い、クルマは良くないという短絡的な学習にして欲しくない。(井表)

・栗崎小学校周辺の地域の方々にはクルマに依存した生活を送っている。大人1人につき1台の自動車を保有している家も少なくない。そのため、児童は友達の家やコンビニに行くために家族の自動車移動している。このような行動を少なくしたい。(戸水)

(7) 授業実施順

- ・4年1組、4年2組の順に実施する。

4. 第2回目授業

(1) 実施場所

- ・4年1組、4年2組の教室

(2) 集合時間

- ・8:10にマルテ

※マルテに集合し、モニターにPPTを写す準備を行ってから、4年1組の教室に向かう。

(3) 準備物

①金沢市

- ・お手紙用の「PPC用原稿用紙」A4サイズを児童人数分

②計画情報

- ・パソコン

- ・デジカメ
- ・ポインター
- ・延長コード

(4) 授業内容

- ・児童に手紙を書かせる前に、児童にこれまで授業で作成された手紙をサンプルとして見せて欲しい。

(井表)

- ・手紙の用紙は、児童が文字の大きさや位置、絵と文の配置を考えやすい「PPC用原稿用紙」を使用
して欲しい。また、児童は楽しみがあると学習に取り組みやすいため、PPC原稿用紙に白抜きのイ
ラストでかこみを付けて欲しい。(戸水)

(5) 授業実施順

- ・4年1組、4年2組の順に実施する。

5. その他

- ・4年1組はメディアに写って欲しくない児童がいるため、4年2組の授業実施日だけ報道に公開して
も良い。(戸水)

以上

②出前支援

第1回目と2回目の出前講座実施の支援を行った。

○第1回目授業



バス・クルマカードを挙げる



交通すごろくのルール説明



コマを移動



記録シートに記入



二酸化炭素排出量を計算



二酸化炭素排出量結果の板書

○第2回目授業



スライド説明



意見交換



手紙作成



手紙発表



板書

③教員ヒアリング

i) 金沢版交通環境学習に取り組んでの全体的な感想

- 金沢版交通環境学習は効果的な学習であった。総合的な学習の時間のねらいである自主的な学習となっており、児童の反応が良く、児童は学習目的を理解していた。
- 4年生は環境について学習しているため、金沢版交通環境学習は児童にとってタイムリーな授業であった。
- 実施時期は、今回実施した9月が適切だった。9月以外だと7月でも良い。
- 余裕を持って実施が決まれば、総合的な学習の時間内で金沢版交通環境学習と他学習との関連づけを行うことができた。
- 一度実施した体験がないと、金沢版交通環境学習のプログラムの流れを掴めないため、総合的な学習の時間の年間カリキュラムへ効果的に位置づけることが難しい。

- ・金沢版交通環境学習は、総合的な学習の時間のねらいである自主的な学習となっていたため良かった。
- ・児童の反応が良かった。児童は、バスを使える時にはバスを使おうという学習目的を理解していた。
- ・4年生は環境について学習している。金沢版交通環境学習の内容は、児童にとってタイムリーな学習内容であった。また、実施時期も適切であった。本年度の総合的な学習の時間の年間カリキュラムにおいて、今回の実施時期以外だと7月も実施時期に適していた。金沢版交通環境学習の実施は、6月頃に決まった。もう少し早く実施が決まれば、7月に実施することも可能であった。
- ・余裕を持って実施を決めれば、総合的な学習の時間の年間カリキュラムに位置づけ、他の学習と金沢版交通環境学習との関連づけを行うことができる。
- ・金沢版交通環境学習のプログラムの内容や流れをよく理解できていなかった。そのため、総合的な学習の時間の年間カリキュラムへ効果的に位置づけることができなかった。今後は、一度実施したことによりプログラムの流れを把握できるため、効果的な位置づけを行うことができる。

ii) 気づいた点、改善点

- 最初の実施希望確認の際、実施内容の説明だけではなく実施時期の相談を受け付けて欲しい。
- 4年生は学習内容を忘れやすいため、1回目授業と2回目授業の間を空けないで実施した方が良い。その場合、事前打合せは1回で良い。
- 事前打合せの実施日は教員に余裕のある夏休み中が適している。
- 教員が予想していたよりも、児童は学習内容を理解していた。
- 2回目の交通すごろくは特に重要である。4年生にも分かるように1回目交通すごろくとの違いや学習内容の解説が必要となる。
- 2回目授業は、児童が話を聞く時間が多かった。クイズ形式の説明にするなど、児童に話を聞いてもらう工夫が必要である。

○事前打合せ

- ・事前打合せは、夏休み中に実施していただけたため、余裕を持って行うことができた。
- ・4年生の児童は、授業内容を忘れやすい。1回目授業と2回目授業の間を空けないで実施したことで、1回目授業で学習した内容が2回目授業でも児童の意識に残っていて良かった。
- ・最初の実施希望確認の際、実施内容を把握したうえで実施日について相談したかった。

○プログラム内容

- ・4年生には難しい内容であり、理解できていない児童が数名見られた。しかし、教員が予想していたよりも児童は多くのことを学習できていた。交通すごろくの実施において、勝ち負けにこだわっている児童は少なかった。ふりかえりシートには、環境について感想を書いている児童や、砂漠化や氷河の減少について調べてみたいという感想を書いている児童が見られた。
- ・1回目授業において、児童は交通すごろくに楽しんで取り組んでいた。2回目交通すごろくは重要である。1回目交通すごろく終了後にアイスブレイクの時間を設定し、2回目交通すごろくが1回目交通すごろくと違うすごろくであることを児童に伝えると良い。4年生にとって分かりやすい解説が必要となる。実際に交通すごろくを体験するなかで1回目交通すごろくと2回目交通すごろくの違いを学習する方法もある。
- ・1回目授業は児童が体を動かして学習する時間が設けられていたが、2回目授業は4年生にとって話を聞く時間が多かった。2回目授業では児童が受け身になっていた。2回目授業には児童に話を聞いてもらうための工夫が必要である。例えば、クイズ形式の説明を行うことが考えられる。

iii) 金沢版交通環境学習を普及推進していくためのアドバイス

- 申込み用紙は、総合的な学習の時間のテーマが「環境」の学年担当にだけ渡された。
- 校長先生が元田上小学校校長で、金沢版交通環境学習を知っていたことや、4年生の担任2人が小教研の理科部会で金沢版交通環境学習の説明を聞いていたこと、夏休みの研修でも担任の1人が説明を聞いたことなど、いくつかの仕掛けが繋がって金沢版交通環境学習の実施に至った。
- 金沢版交通環境学習の授業は教員だけで実施可能なレベルである。しかし、学習内容がバスに特化していると教員だけで実施することが難しいため、出前授業をお願いしたい。環境問題の一部として交通問題を扱う程度であれば、教員だけでも実施可能である。
- 毎年5月に金沢市内の全小学校から、総合的な学習の時間のテーマを「環境」としている学年担当の教員を集めた研修を行い、その場でその年の実施希望校の募集を行ってはどうか。6月頃の返答とすれば、教員は総合的な学習の年間カリキュラムに金沢版交通環境学習を組み込むことができ、9～10月頃には実施可能である。
- OSA@SHOOLのメール以外の部分を見ることは少ない。

- ・申込み用紙は、総合的な学習のテーマを環境としている4年生担任の戸水先生に直接渡された。他の先生の元には渡っていない。
- ・粟ヶ崎小学校の校長は元田上小学校校長であり、田上小学校校長時代に金沢版交通環境学習を実施している。校長から金沢版交通環境学習の実施依頼があった。また、今年の4年生担任は2人とも小教研の理科部会に所属している。そのため、2人とも小教研の理科部会で金沢版交通環境学習について説明を受けている。担任2人の間に温度差がなかったことも金沢版交通環境学習実施に繋がった一因である。さらに、夏休みの研修として実施された金沢版交通環境学習推進セミナーに4年生担任であり交通安全の担当である井表先生が参加したことで金沢版交通環境学習はより身近なものとなった。このようにいくつかの仕掛けが繋がることで金沢版交通環境学習の実施に至った。
- ・金沢版交通環境学習の授業は、教員だけで実施可能なレベルである。しかし、金沢版交通環境学習は、環境問題のなかでバスに特化した内容となっている。バスに特化した内容であれば、教員だけで実施することが難しいため、出前授業をお願いしたい。環境問題の一部として交通問題を扱う程度であれば、教員だけでも実施可能である。また、バスはみんなの乗り物だが、民間企業が運営を行っており、自動車関連の会社に勤務している親を持つ児童もいる。
- ・毎年1回、総合的な学習の時間で環境をテーマにしている学年の教員を対象とした研修を行ってはどうか。金沢市内の全小学校から1名程度参加することとし、金沢版交通環境学習の実施内容や実施成果についての説明を行い、本年度の実施希望校を募る。研修は5月頃に実施し、実施希望の返事は6月頃にいただくこととする。このスケジ

ユールで研修を実施することによって、実施校の教員は総合的な学習の時間の年間カリキュラムに金沢版交通環境学習を組み込むことができる。また、金沢版交通環境学習を9～10月頃に実施することが可能となる。

- SA@SCHOOLは、メールを確認するために定期的に見ている。しかし、それ以外の部分については余裕がないため見ないことが多い。

(3) プログラムを実施するにあたっての注意点

- ・バスとクルマの二酸化炭素の排出量の違いは、1台あたりに乗車できる人数の違いによるものであるため、交通すごろくでバスに乗車する人数は多くないことが想定される場合、児童が疑問を持つのではないかと、教員から質問をいただいた。交通すごろくの版上だけではなく、バスはいろいろなところを周りたくさんの人が利用しているという設定にしてはどうかと提案した。最初から、そのような説明はしないが、児童に聞かれた場合には回答することとなった。
- ・児童が文字を書きやすいように、手紙作成の小プログラムでは「P P C用原稿用紙」(A4サイズ)を用意した。また、児童は楽しみがあると学習に取り組みやすく、早く作業が終わった児童は色塗りができるため、P P C原稿用紙にイラストの枠を印刷した。
- ・2回目のすごろくは重要であるが理解が難しいため、特に丁寧な説明が必要である。

第3章 今後の進め方

3-1 教員ヒアリングからの課題

(1) 実施時期について

各小学校校長に、5月に発展版金沢版交通環境学習の実施依頼を行っているが、校長から教員に実施の指示があるのは6月であり、教員は交通環境学習プログラムを年間カリキュラムに効果的に位置づけることが難しいと感じている。

(教員の意見)

- ・ 余裕を持って実施が決まれば、総合的な学習の時間内で金沢版交通環境学習と他学習との関連づけを行うことができた。(栗崎小学校)
- ・ 4月に年間カリキュラムを作成しているため、今回のように6月半ばに金沢版交通環境学習の実施依頼をされると年間カリキュラムのなかに組み込むことに苦労する。(材木町小学校)

実施時期を柔軟に変更できるとは知らず、より効果的な時期に実施することができなかった。

(教員の意見)

- ・ 最初の実施希望確認の際、実施内容の説明だけでなく実施時期の相談を受け付けて欲しい。(栗崎小学校)
- ・ 第1回目授業、CO2削減プランの実施、第2回目授業の実施時期は変更できないものだと判断し、総合的な学習の時間の流れに沿わないが実施した。(材木町小学校)

(2) 打ち合わせについて

第1回目授業と第2回目授業との実施時期が近ければ、第1回目授業の打ち合わせ時に第2回目授業の打ち合わせを行い、詳細は電話で確認したほうが教員の負担にならない。また、教員の時間に比較的余裕のある夏休み中に打ち合わせをすることも、教員の負担を減らす方法である。

(教員の意見)

- ・ 4年生は学習内容を忘れやすいため、1回目授業と2回目授業の間を空けないで実施した方が良い。その場合、事前打合せは1回で良い。(栗崎小学校)
- ・ 事前打合せの実施日は教員に余裕のある夏休み中が適している。(栗崎小学校)
- ・ 事前打合せは1回で良い。1回目授業の前に1回目授業と2回目授業の両方の打合せを行い、2回目授業の前は電話での最終確認を行えば良い。(材木町小学校)

第1回目打ち合わせ時に、タイムスケジュールと役割分担表を提示することは、教員が授業の流れを把握するのに効果的である。

(教員の意見)

- ・最初の打合せ時にタイムスケジュールと役割分担表を提示していただいたため、授業全体を把握することができた。(米泉小学校)

(3) 授業の仕方について

スライド説明の際、一方的な説明になっていて、説明内容が児童の記憶に残らない。

(教員の意見)

- ・2回目授業は、児童が話を聞く時間が多かった。クイズ形式の説明にするなど、児童に話を聞いてもらう工夫が必要である。(栗崎小学校)
- ・学習内容の定着をはかるためには、教員が一方的に説明を行うのではなく、クイズなど児童とやりとりができる授業を行うと良い。(材木町小学校)

(4) 関連付け

総合的な学習の時間の学年テーマが環境である場合、発展版金沢版交通環境学習に取り組みやすい。また、総合的な学習のねらいは、自主的な学習であり、その点においても、発展版金沢版交通環境学習は適している。

(教員の意見)

- ・金沢版交通環境学習は効果的な学習であった。総合的な学習の時間のねらいである自主的な学習となっており、児童の反応が良く、児童は学習目的を理解していた。(栗崎小学校)
- ・4年生は環境について学習しているため、金沢版交通環境学習は児童にとってタイムリーな授業であった。(栗崎小学校)
- ・実施学年は、総合的な学習の時間のテーマが「環境」である5年生が適している。実施教科としては、国語の「伝え合って考えよう」、社会の「わたしたちの生活と工業生産—自動車をつくる工業」の単元と関連させて実施することが考えられる。(米泉小学校)

(5) 周知方法

小教研での説明、夏休みの研修、プログラム集の配布などで金沢版交通環境学習の情報を提供しても直接関係した教員にしか伝わらないが、いくつかの仕掛けが重なり実施に至ることもある。

(教員の意見)

- ・発展版交通環境学習実施の申込み用紙は、総合的な学習の時間のテーマが「環境」の学年担当にだけ渡された。(栗崎小学校)
- ・教員向けの研修や小教研での説明内容は、参加した教員内でしか情報が共有されない。(栗崎小学校)
- ・4～6年生分のプログラム集が5年生担任の先生方の手元に行き渡っていない可能性がある。(米泉小学校)
- ・校長先生が元田上小学校校長で、金沢版交通環境学習を知っていたことや、4年生の担任2人が小教研の理科部会で金沢版交通環境学習の説明を聞いていたこと、夏休みの研修でも担任の1人が説明を聞いたことなど、いくつかの仕掛けが繋がって金沢版交通環境学習の実施に至った。(栗崎小学校)

実際に実施されるとある程度の評価をいただけるが、実施するまでの教員への学習プログラムの周知が十分ではない。ただし、来年度も実施したいと思っても、来年度出前講座をしてもらえるという確約がないと、年間スケジュールに入れづらい。

(教員の意見)

- ・金沢版交通環境学習のプログラムの内容や流れをよく理解できていなかった。そのため、総合的な学習の時間の年間カリキュラムへ効果的に位置づけることができなかった。今後は、一度実施したことによりプログラムの流れを把握できるため、効果的な位置づけを行うことができる。(栗崎小学校)
- ・金沢版交通環境学習の学習内容を十分に理解したうえで、総合的な学習の時間のなかに位置づける必要があったと反省している。(材木町小学校)
- ・効果的な学習であり、児童が楽しそうに学習していたため、来年度も取り組みたい。(米泉小学校)
- ・次年度授業の年間スケジュールに金沢版交通環境学習を入れるためには、出前授業を行っていただけるという確約が必要である。(米泉小学校)

地球温暖化抑制のためにクルマ利用を抑制するためだけではなく、クルマ利用抑制が及ぼすさまざまなメリットや金沢版交通環境学習の金沢市の取り組みのなかでの位置づけなど、教員の交通環境学習の意義や位置づけの理解が必要である。

(教員の意見)

- ・金沢版交通環境学習の授業は教員だけで実施可能なレベルである。しかし、学習内容がバスに特化していると教員だけで実施することが難しいため、出前授業をお願いしたい。環境問題の一部として交通問題を扱う程度であれば、教員だけでも実施可能である。(栗崎小学校)
- ・バスはみんなの乗り物だが、民間企業が運営を行っており、自動車関連の会社に勤務している親を持つ児童もいる。(栗崎小学校)

sa@school にリンクしている金沢版交通環境学習のホームページは見られていない。

(教員の意見)

- ・sa@school のメール以外の部分を見ることは少ない。(栗崎小学校)
- ・金沢版交通環境学習のHPは、取り組むことが決定するまでは見なかった。(材木町小学校)
- ・sa@school は定期的に確認しているが、金沢版交通環境学習HPの存在は知らなかった。(米泉小学校)

以下のような具体的周知普及方法が提案された。

- 総合的な学習の時間の専門部会で、4月にPRを行う。
- 公開授業で金沢版交通環境学習に取り組んでもらう。
- 金沢「絆」教育における金沢学の1つとして、金沢版交通環境学習を組み込んでもらえるよう金沢市学校指導課に働きかける。
- 5月に総合的な学習の時間のテーマを「環境」にしている学年担当を対象とした研修を実施し、その際実施希望校の募集を行う。6月ごろに実施の返答があれば、9,10月には実施できる。

3-2 まとめ

STEP1 募集～事前打ち合わせ

実施時期の柔軟な対応

年間カリキュラムとの関連付けのため、発展版交通環境学習の実施時期は重要である。効果的なプログラムの実施や教員の負担を軽減するため、実施校募集時や初回打ち合わせ時などは、学習プログラム内容の説明をしながら、教員と実施希望時期を柔軟に調整することが必要である。

必要最低限の打ち合わせ

第1回目と第2回目の授業実施時期が近い場合は、第1回目授業の事前打ち合わせ時に第2回目授業の打ち合わせも行い、教員の負担にならないよう打ち合わせ回数を必要最低限に留める。夏休み中の打ち合わせは、教員に比較的時間があり負担が少ない。

理解を促す授業のタイムスケジュールと役割分担表

教員が授業の流れなどを理解しやすいため、打ち合わせ時にはタイムスケジュールと役割分担表を持参する。

STEP2 授業実施時

児童との頻繁なやりとり

児童が飽きずに、また説明内容が記憶に残るようにするため、スライドを説明しながら児童とのやりとりを適時するように心がける。

【やりとり例】

〇〇という言葉聞いたことある人は手を挙げてください？

地球温暖化になるとどんなことが起こるか知っていますか？

どんなときにクルマを利用しますか？

電車、バスとクルマ、一人の人を1km運ぶのに一番二酸化炭素を出すのはどの乗り物でしょう？（それぞれについて挙手させる）

ふらっとバスに乗ったことはありますか？

など

周知普及

金沢市の取り組みのなかでの位置づけや、金沢版交通環境学習はクルマ利用抑制だけではなくシティズンシップの涵養に効果的であることを広く教員に周知

環境教育のなかのひとつとしてクルマ利用の抑制を呼びかけることはできても、たくさんの時限数を用いて交通環境学習に、教員自身が取り組むことは難しいと感じている。交通環境学習は、環境教育のみならずシティズンシップの涵養や、金沢市が取り組む歩行者公共交通優先のまちづくりにつながることを、まず理解してもらうことが金沢版交通環境学習の推進の土台づくりとして必要である。

現在も行っている校長会と小教研の社会科と理科部会での継続的な周知

直接関係する教員にしか周知はされないものの、継続的に周知を行うことで、今後効果が期待される。

金沢「絆教育」への組み込み、総合的な学習の時間の専門部会での周知、総合的な学習の時間のテーマが「環境」である学年担当を対象とした研修を5月に開講するなど、新たな周知方法への取り組み

現在行っている周知方法以外に、新たな普及方法を検討することが必要である。

効果的・継続的な 金沢版交通環境学習の推進

